2024年度(令和6年度)

事業報告書

自 2024年4月1日

至 2025年3月31日

公益社団法人日本ローイング協会

[2024年度(令和6年度)事業報告]

今年度は、「Japan Rowing Vision 2020」を基本方針として策定した中期事業計画の最終年度であったが、計画した諸施策を実行し確実な前進を遂げた。特に最重要課題と位置づけた財務基盤の再建は予算管理規定に基づく運用の徹底に努め、単年度収支15百万円を実現し今後への道筋をつけることができた。パリ2024オリンピック・パラリンピック（パリ大会）では、メダル獲得を最終目標に臨んだが、オリンピックは男子シングルスカルで9位、男子軽量級ダブルスカル14位、女子軽量級ダブルスカルで15位、パラリンピックはPR1男子シングルスカルで8位入賞という結果であった。また、ナショナルトレーニングセンターを戸田から「海の森水上競技場」に移転するとともに、「海の森総合型地域スポーツクラブ」と連携し、海の森を中心とする地域がTOKYO2020のレガシーとして、地域住民だけでなく幅広いローイングファンを対象としたスポーツの大きな拠点の一つにするべく活動した。さらに、日本スポーツ振興センターとバーチャルローイングの国際競技力向上等に向けた包括的連携について基本合意書を締結、3回目となるバーチャルインドアローイング大会も開催し、eスポーツの新たな魅力を発信した。

1.「日本の地域社会でローイング競技の普及を図る」に関する事業

国内で楽しく安全なローイングの機会を提供することにより、ローイング人口の増大を図る取り組みを行った。また「パラローイング」に加え、ロス大会から正式種目に採用された「コースタルローイング」についても従来の振興に加え強化を含め都道府県協会との連携を強め、各地域における普及・強化活動の支援を行った。

2.「ローイング選手の育成・強化を行い、競技力の向上を図る」に関する事業

今年度は、パリ大会でのメダル獲得を最優先目標に取り組んだが、結果は上述の通りであった。この結果を踏まえ国際競技力向上に向けて強化活動の総括（オリ・パラ）を実施するとともに、次期強化戦略計画策定にむけての準備を開始した。また、育成については中長期的視点に立ちジュニアからシニアまで持続可能な国際競技力向上に向け、タレント発掘育成事業の更なる充実と8年目を迎えるJOCエリートアカデミー事業を継続すると共に、日本スポーツ振興センターの指導のもとアスリート育成パスウェイ「ローイング版FTEM」の構築に取り組んだ。

3.「ローイングの全日本選手権大会およびこれに準ずる競漕会を開催する」に関する事業

今年度は、13大会を本会主催大会として開催した。内2大会を「海の森水上競技場」で開催し、同会場による大会開催ノウハウの蓄積を継続すると共に、「する人」、「みる人」、「支える人」にあってより魅力ある大会となるように東京都や指定管理者とも緊密な連携に努めた。

4.「日本代表チームの役員と選手を選定し、国際競漕大会へ派遣する」に関する事業

今年度も公平な派遣選手選考を行い、オリンピック・パラリンピック大陸予選・世界最終予選、パリ大会、シニア・U19・U23世界選手権を中心にワールドカップやワールドユニバーシティゲームスなど各世代の主要な国際大会に選手団を派遣した。

5.「ローイング競技の諸規則・諸規定の制定及びコース・競技用具の審査と検定」に関する事業

コースの新規・更新認定業務を都道府県協会や地元自治体などと協力して引き続き実施した。

6.「その他の重要な事業」

スポーツ団体ガバナンスコードについては、実情の的確な把握と改善に取り組み、ガバナンス強化を推進した。

[2024年度(令和6年度)事業報告]

1. 競技本部関係事業

(1) 競漕大会開催ならびに競技者に関する事業

① 競漕大会開催について

・今年度は主催大会として、以下の大会を開催した。

開催期日	大会名	開催地・コース
5月25日(土)～26日(日)	第74回全日本社会人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
6月20日(木)～23日(日)	第102回全日本ローイング選手権大会	東京都江東区 海の森水上競技場
7月6日(土)～7日(日)	第15回全日本マスターズレガッタ	宮城県登米市 アイエス総合ボートランド
7月27日(土)～28日(日)	第44回全日本中学選手権競漕大会	岐阜県川辺町 川辺漕艇場
8月9日(金)～12日(月)	第72回全日本高等学校選手権競漕大会	長崎県諫早市 本明川水上競技場
9月4日(水)～8日(日)	第51回全日本大学ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月4日(水)～8日(日)	第64回オックスフォード盾レガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月7日(土)～8日(日)	第1回ジャパンオープンレガッタ	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
9月14日(土)～17日(火)	第78回国民スポーツ大会ローイング競技	佐賀県佐賀市 富士しゃくなげ湖水上競技場
10月18日(金)～20日(日)	第65回全日本新人ローイング選手権大会	埼玉県戸田市 戸田ボートコース
10月27日(日)	TOKYO2020 開催記念レガッタ2024	東京都江東区 海の森水上競技場
12月7日(土)	第3回バーチャルインドアローイング大会	オンライン開催 特設会場(戸田市、東京都中央区京橋、東京都江東区海の森水上競技場)
2025年 3月21日(金)～23日(日)	第36回全国高等学校選抜大会 JOCジュニアオリンピックカップ	静岡県浜松市 天竜ボート場

※新たに「ジャパンオープンレガッタ」を創設し、第1回を9月に開催した。

② インドアローイングについて

・昨年度再開したA大会(全国9ブロック)およびB大会を開催した。

③ 競技団体及び競技者について

- ・競技者規定に基づき、2024年度の競技団体および競技者の資格決定を行った。
- ・2024年度の競技団体、競技者登録を行うとともに、当該年度の登録状況を把握した。

(2) コース認定に関する事業

今年度は以下の更新認定と新たに申請のあったコースについてコース認定を実施した。

・2024年度認定期間満了を迎えたコース

都道府県	コース名	級	レーン	距離 (m)
青森県	新田名部川ボートコース	C	3	1,000
秋田県	大瀉漕艇場	B	4	1,000
福島県	福島県菅荻野漕艇場	B	6	1,000
神奈川県	相模湖漕艇場	B	6	2,000
山梨県	河口湖ボートコース	B	6	1,000
三重県	奥伊勢湖漕艇場	B	4	1,000
岐阜県	川辺漕艇場	B	6	1,000
和歌山県	美山漕艇場	C	4	1,000
岡山県	百間川漕艇場	B	6	1,000

・2024年度新規認定実施水域

長崎県・本明川水上競技場…2024年度高校総体開催地についてB級コース認定を実施した。

(3) 競漕艇の計測に関する事業

第78回国民スポーツ大会、第72回全国高等学校選手権及び第36回全国高等学校選抜大会において競漕艇の計測業務を行った。

(4) 海の森水上競技場に係わる事業

レガシー活用の観点から、今年度は同会場において「第102回全日本選手権大会」および「TOKYO2020開催記念レガッタ」(※普及委員会主管)を開催した。

(5) 審判に関する事業

①審判業務

- ・今年度本会主催および主管大会に審判長はじめ審判員を派遣し、大会審判業務をより円滑に行った。
- ・強化委員会による日本代表選考レースに審判を派遣し審判業務を行った。

②審判員養成事業

- ・国体及びインターハイ等の地方大会において円滑な審判団編成のため、C級審判を現在の1,687名から底上げを図り、結果として、1,806名にまで増加した。
- ・審判員養成を目的に次の研修会および認定試験を行った。

研修会名称	開催時期	開催場所
第92回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	6月	埼玉県・戸田
第93回審判員研修会 (B級審判員認定試験併催)	10月	埼玉県・戸田
高体連主催研修	10月	島根県・松江市

(6) 国際大会に関する事業

2026年開催の第20回アジア競技大会の準備を組織委員会と連携して実施した。(継続中)

2. 強化本部関係事業

(1) 選手強化に関する事業

①基本方針

2024年シーズンは、パリ2024オリンピック大会（以下、「パリ大会」）及び世界ローイング選手権（以下、「世界選手権」）におけるメダル獲得及び上位進出という目標を目指す重要なシーズンと位置付けた。東京2020大会以降に推進してきた強化戦略プランを具現化し、パリ大会では男子シングルスカルで9位、男子軽量級ダブルスカル14位、女子軽量級ダブルスカルで15位という結果であった。世界選手権にはパリ大会の補漕であった二選手を男女軽量級シングルスカルに、また、U23・U19世界選手権にも多くの選手を派遣するなど次世代のオリンピック代表選手を育成するシーズンでもあった。加えてアジア選手権など国際大会への積極的な派遣と各大会での決勝進出を目標とした幅広い選手の育成にも取り組み、且つそのための支援体制も継続することができた。

②具体的活動

- 1) ナショナルチーム及び所属団体における共通の強化メソッドの実施（共有と浸透）
 - ・毎合宿入りの前に所属団体とミーティングを行い、トレーニングの内容を確認するなどナショナルチームと所属間におけるトレーニング方法（強化メソッド）の共有化を図った。
 - ・サポートコーチ制度を継続することによって、ナショナルチームと所属のコーチ間におけるトレーニング方法の共有化の徹底を図った。
- 2) 代表チームの識別
 - ・ナショナルチームのA代表、B代表およびC代表の識別化を図り、A代表はパリ大会及び世界選手権へ向けた強化を、B・C代表においてはアジアカップやアジア選手権などを経験させることにより次世代アスリートの育成を目的とした強化を推進した。
- 3) オープン、スウィープ種目強化事業
 - ・2023年のアジア競技大会でのメダル獲得をステップとして、今後のナショナルチーム育成のためオープン、スウィープ種目の更なる強化を継続し世界へのチャレンジ機会も増やした。
- 4) 次世代指導者の育成
 - ・次世代指導者育成という観点で、サポートコーチ経験者の中から次世代のナショナルチームコーチを育成していくことも視野に入れた活動を推進した。
- 5) コンディションに対する所属チームへのフィードバック
 - ・所属団体に対しての選手のコンディションをフィードバックし、所属との更なる連携強化を図った。
- 6) 協会内組織連携
 - ・アスリート委員会、医科学委員会、パラローイング委員会との横断的な連携により、より快適なチーム環境の構築を目指した。
- 7) 継続強化
 - ・タレント発掘・育成事業を継続し、高身長、高フィジカルな選手の発掘を目指した。

- ・U23 選手へのサポートを拡充させるとともに、ジュニアからシニアへの一貫したアスリート育成パスウェイの構築、そして、メダルポテンシャルアスリート (MPA) およびその予備軍であるポテンシャルアスリート (PA) 制度の運用を本格化させた。

③強化合宿及び大会派遣について

【シニア】

事業名	実施場所	日程および結果
4月国内合宿	埼玉県・戸田	4月3日(木)～4月26日(金)
アジア・オセアニア 大陸予選	韓国・忠州	4月19日(金)～4月22日(月) LM2x(古田、宮浦) 1位(※) LW2x(大石、廣内) 1位(※) W1x(米川):2位 ※パリオリンピック出場権獲得
欧州遠征	フランス・エギユベレット	5月6日(月)～7月21日(日)
世界最終予選	スイス・ルツェルン	5月19日(金)～5月21日(日) W1x(米川) 6位 W4-(中条、高野、榊原、木野田) 6位 M2x(櫻間、武田) 準決勝敗退
ワールドカップⅡ	スイス・ルツェルン	5月24日(金)～5月26日(日) LM2x(宮浦、古田) 9位 LW2x(大石、廣内) 8位 LM1x(西村) 8位 LW1x(米澤) 9位
ワールドカップⅢ	ポーランド・ポズナン	6月14日(金)～6月16日(日) M1x(荒川) 棄権
仏・事前合宿	フランス	6月28日(金)～7月26日(金)
パリオリンピック	フランス・パリ	7月27日(土)～8月4日(日) M1x(荒川) 9位 LM2x(古田、宮浦) 14位 LW2x(大石、廣内) 15位
世界選手権	カナダ・ セントキャサリンズ	8月18日(日)～8月24日(土) LM1x(西村) 14位 LW1x(米澤) 16位
アジアローイング 選手権	ウズベキスタン・ サマルカンド	10月10日(木)～10月14日(月) M8+(西村、佐々木、中田、中溝、福田、 柘植、是谷、橋本、林) 2位 M1x(宮口) 4位 W1x(飯島) 5位 LW2x(成瀬、四方) 4位

【U23】

事業名	実施場所	日程および結果
U23 世界選手権	カナダ・ セントキャサリンズ	8月18日(日)～8月23日(金) BLWx(猪野、新見) 7位 BM2-(中島、上戸) 16位 BM1x(宮口) 20位

【U19】

事業名	実施場所	日程および結果
U19 世界選手権	カナダ・ セントキャサリンズ	8月21日(水)～8月25日(日) JW4x(中島、志賀、江田、中世古) 12位 JM4x(中田、永坂、杉原、渡邊) 13位 JM2x(成瀬、和田) 16位
U19 アジアローイング 選手権	中国・瀋陽	9月11日(水)～9月14日(土) JM4x(和田、永坂、杉原、渡邊) 2位 JW2x(中島、伊藤) 3位 JM1x(山本) 4位

(2) タレント発掘、及び競技者育成に関する事業

①基本方針

1) 海外育成拠点モデル事業

- ・ポテンシャルアスリート (MPA) の育成に向け、有望なタレント育成選手の海外レース・合宿への派遣を積極的に行い、経験値向上を図った。

2) 国内育成モデル事業

- ・タレント育成選手の国内合宿を行い、幅広い強化・育成を図った。

3) 発掘育成拠点化事業

- ・ローイング選手の発掘・育成に向け国内拠点の整備と普遍的なシステム構築に向け全国各地における拠点化の整備を行った

4) 発掘モデル再構築事業

- ・アスリート育成パスウェイに沿ってトライアウト1次選考・2次選考を実施した。

5) JOCエリートアカデミー事業の継続

- ・アスリート育成パスウェイの重要な事業の一つとして活用し、修了生のフォローも継続して行った。

②具体的活動

1) タレント発掘海外遠征

実施月	事業名	遠征地	日程および結果
7月	World University Championship	オランダ・ アムステルダム	7月4日(木)～7月6日(土) M1x(宮口) 5位 M4-(津志田、田辺、 倉内、若崎) 7位

			LW2x (猪野、新見) 7位 M2- (中島、上戸) 8位 W1x (浅井) 14位
1~2月	海外合宿	オーストラリア・シドニー	2月7日(金)~9日(日) EW1x (米川) 2位 EW2x (米川) 1位

2) MPA (U23・U21) 強化育成合宿

実施月	実施事業	実施場所	対象選手
4月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23
5月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23
7月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	U23
8月	MPA育成合宿	福井県・久々子湖	U23
12月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
1月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
2月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21
3月	MPA育成合宿	埼玉県・戸田	U23・U21

3) JOCエリートアカデミー (EA) 事業

実施月	事業名	遠征地	対象選手
2月	EA育成合宿	岐阜県・川辺他	EA

4) U19有望選手発掘事業

実施月	事業名	遠征地	対象選手
12月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	U19有望選手候補
1月	有望選手発掘育成合宿	熊本県・菊池	U19有望選手
2月	有望選手発掘育成合宿	埼玉・戸田	U19有望選手

5) タレント育成合宿

実施月	実施事業	開催地	対象選手
4月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
5月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
6月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
7月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
8月	タレント育成合宿	福井県・久々子湖	タレント
2月	タレント育成合宿	熊本県・菊池	タレント

(3) 医科学に関する事業

医療従事者の確保及び協力関係を確保し、円滑な大会運営医療業務、強化合宿、海外遠征および日常トレーニングに継続して貢献した。また、トレーナー部会を通じコンディショニングに関する啓発を積極的に行った。

①メディカルサポートに関する事業

- ・ 本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権）に医師ならびに看護師を派遣し、救急医業務を行った。
- ・ 国内強化合宿、海外強化合宿および海外大会へ、トレーナーが帯同し選手のコンディショニング維持、改善および指導を行った。
- ・ 特にトレーナー部会においては、コンディショニングに関する知識を普及するために、大会時に指導者と選手を対象にトレーナーブースを開設した。

②日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（ローイングコーチ）講習会に、講師を派遣した。

③競技用具の審査と検定に関する事業

- ・ 本会の規格艇登録規定に基づき、規格艇の審査および原簿登録に係わる業務を行った。

(4) 指導者育成に関する事業

日本スポーツ協会と共に、ライフステージに応じた多様なスポーツ活動を推進することのできる公認スポーツ指導者を増やし、その質を高め、活躍の機会を広げることで誰もがスポーツに親しむことのできる社会の実現に貢献することを目的に活動した。

① 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者（ローイングコーチ）養成事業

スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、プレーヤーズセンタードの考え方のもとに暴力やハラスメントなどあらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援することを通して、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献できる公認指導者の人数増と質の向上を目指し、日本スポーツ協会助成事業による公認スタートコーチ、コーチ1、コーチ3、コーチ4養成講習会について以下の日程で講習会を開催した。

講習会名	開催日程	開催場所
公認コーチ4 養成講習会	専門科目：11月2日～5日	東京都/J S O S
公認コーチ3 養成講習会	前期：9月21日～23日 後期：10月12日～14日	滋賀県/琵琶湖漕艇場
公認コーチ1 養成講習会	前期座学5月5日～6日 後期座学：8月17日～18日 実技①：11月16日～17日 実技②：11月23日～24日 実技③：12月14日～15日	座学：オンライン 実技①：山形県/酒田市 実技②：島根県/松江市 実技③：群馬県/館林市
公認スタートコーチ	① 6月16日（日） ② 7月21日（日） ③ 9月1日（日） ④ 9月29日（日） ⑤ 12月8日（日） ⑥ 12月21日（日）	① 東京都/海の森水上競技場 ② 愛知県/名古屋港漕艇センター ③ 東京都/海の森水上競技場 ④ 東京都/海の森水上競技場 ⑤ 石川県/津幡町立津幡南中学校 ⑥ 広島県/広島県立広島皆実高等学校

資格更新義務研修、 および コーチカンファレンス	朝日レガッタ：5月4日（土）	滋賀県/瀬田漕艇倶楽部
	中地区：11月23日（土）～24日（日） 東地区：11月30日（土）～12月1日（日） 西地区：11月30日（土）～12月1日（日）	中地区：福井県/美浜町総合体育館 東地区：宮城県/宮城県塩釜高等学校 西地区：島根県/島根県立松江東高等学校
	コーチミーティング：6月21日（金）	全日本選手権会場 オンラインとのハイブリッド

② コーチミーティングおよびコーチカンファレンス

指導者の質を高め活躍の機会を増やすため各委員会と連携し、コーチミーティングおよびコーチカンファレンスを開催した。

(5) アスリートに関する事業

- ・アスリートの視点に立った提言および関係事業への参画を行った。特にトップアスリートとの積極的なコミュニケーションに努め、セカンドライフに関する相談や環境改善について意見交換を行った。
- ・インターハイや国民スポーツ大会において高校生のローイング競技に対する姿勢や各地域の普及と強化の実態把握に努めた。

3. 普及本部関係事業

(1) 普及に関する事業

① 既存クラブ活性化の支援

- ・各都道府県ローイング（ボート）協会および全国ボート場所在市町村協議会と連動し、全国主要水域のローイング普及環境の状況等を共有した。

③ ジュニア層のローイング人口増及び活動支援

- ・中学生および高校生のローイング競技振興を図るため、全国中学校ローイング連盟および全国高等学校体育連盟ボート専門部の活動に対し、助成金交付と支援を行った。
- ・特に中学生のローイング人口拡大に向け、全国中学校ローイング連盟と連携し、全日本中学選手権などを開催した。

③ TOKYO2020開催記念レガッタの開催

- ・海の森水上競技場で10月27日に開催した。

④ 全国ボート場所在市町村協議会との協力関係推進

- ・協議会主催会議並び市町村レガッタ（9/7～8於薩摩川内）に参加。協議会との関係強化を図った。

⑤ オリンピアンの会に関する活動

- ・JSC助成事業として、ローイング競技普及を目的に「オリンピアンとエルゴファイト」を海の森水上競技場にて10月27日（TOKYO2020開催記念レガッタにて）に開催した。

(2) 広報に関する事業

全国的なローイング機会拡大とローイング人口の拡大に向け、広範に適時適切な情報発信を行った。

- ① より魅力的な協会広報誌「ROWING」の発行
 - ・本会機関紙「ROWING」を6回発行した。
- ② 本会ホームページの改善とSNSの活用
 - ・タイムリーな報告と強化関連を中心に掲載情報量のアップを引き続き行った。
 - ・Facebookの活用を行い、日本代表選考レースなどを発信した。
- ③ 報道機関、マスコミへの対応と協力
 - ・普及およびスポンサー獲得のためのメディア露出を目的とした、情報配信をより積極的に行った。
 - ・東京運動記者クラブはじめ各報道機関ならびに出版業界との関係を密にし、協会体制およびコースタルローイング等のタイムリーな情報発信に努め、報道を通じて本会の活動の広報に取り組んだ。

(3) 安全環境に関する事業

以下の活動を通じて、ローイングの安全と環境保全に対する意識付けを行った。

- ① 主催大会における救助業務
 - ・本会の主な主催大会（全日本選手権、全日本社会人選手権、全日本大学選手権、全日本新人選手権）において施設委員会、審判委員会、医科学委員会、関東漕艇学生連盟と連携し救助業務を行った。
 - ・2月に戸田において施設委員会及び日本ライフセービング協会の支援を得て講習会を企画し関東漕艇学生連盟とともにスキルアップにも取り組んだ。
- ② セーフティアドバイザー（SA4）制度の活性化と研修の実施
 - ・全国のSAに対するオンライン会議の活用によるレベルの均質化を図った。
 - ・研修会の実施。

事業名	開催日程	開催場所
セーフティアドバイザー研修	9月、12月	埼玉県・戸田市 & オンライン
セーフティアドバイザー研修	11月	長野県・下諏訪町

- ③ 安全啓発活動活性化に資する指導教材の充実

「安全マニュアル」の改定を3年ぶりに行った。乗艇中の突然死についての注意喚起や艇庫内・艇運搬中の転倒・落下事故対策の項を充実させた。
- ④ 環境保全の意識付け推進

水辺を中心に地球環境を考える「Clean Water Project」を総務委員会とともに企画し実施した。各競技団体で実施可能で環境を考えることにつながる「日常的な取り組み・企画」を募集し、審査の上オンラインシンポジウムで結果を公表、環境保全活動の大切さに関し参加者への共有を図った。

(4) コースタルローイングに関する事業

2028年ロザンゼルスオリンピックを見据えた選手選考および選手派遣事業、国際交流事業

を推進した。

① 代表チームの評価・認定・派遣

- ・強化委員会と協力し、昨年度成立したクラウドファンディングの資金とタレント発掘助成金を用いて以下の活動を行った。

実施月	大会	開催地	対象種目
4月	WRBSF評価エルゴ	オンライン	全種目 (Jr. はエルゴで決定)
7月	WRBSF評価レース	鳥取県岩美町	シニア全種目
8月	Rotterdam Beach Sprints	ロッテルダム・オランダ	CMix2x
9月	WRCC、WRBSF	ジェノア・イタリア	代表認定クルー

② 国際交流企画

- ・国際委員会と協力し、昨年度成立したクラウドファンディングの資金とノエビア財団助成金を用いて、海外有力選手・コーチを日本に招聘した。
- ・米国代表選手、コーチによるアスリートトークセッションを全国各地で開催し、軽量級から転向後、WRBSF3連覇したノウハウを国内関係者に共有するイベントを企画実施した。

実施月	大会	開催地	海外選手・コーチ
9月	アスリートトークセッション	滋賀県大津市 愛媛県今治市 埼玉県戸田市	米国代表 選手1名・コーチ1名
9月	国際交流レース	愛媛県今治市	米国代表 選手3名・コーチ1名 オーストリア代表 選手1名 ラドビア代表 選手1名

③ 中長期強化戦略議論への参画

- ・企画戦略委員会、強化委員会、と連携し、米国代表をモデルとしたコースタル中長期戦略の検討と次年度コースタル強化事業計画の具体化を行った。

4. パラローイング本部関係事業

(1) 基本方針

- ・パラローイングの国内における普及拡大と、パラローイング事業基盤を構築する。
- ・パリパラリンピック出場と上位入賞。

(2) 基本計画

- ・国際競争力を強化し、パリパラリンピック PR1 男子シングルスカルで8位入賞した。
- ・NTC 競技別強化拠点として指定された海の森水上競技場の拠点整備を図った。岐阜県川辺漕艇場で乗艇体験会を実施し、パラローイング新規拠点づくりと競技普及を図った。

- ・J-STARによる選手発掘では、3名が専門測定に合格し1名を次年度練習生に認定した。
- ・2・3月合宿で有償コーチ2名を招聘、選手サポートを拡充できた。

(3) 具体的活動

①国内合宿

実施月	事業名	開催予定地	対象選手
4月	4月強化合宿	神奈川県・相模湖漕艇場	強化指定/育成選手
5月	5月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
6月	6月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
7月	7月強化合宿	東京都・海の森水上競技場 鳥取県・錦海ボートコース	強化指定/育成選手
8月	8月強化合宿	鳥取県・錦海ボートコース	国際大会派遣選手
10月	10月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
12月	12月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
1月	1月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
2月	2月強化合宿	東京都・海の森水上競技場	強化指定/育成選手
3月	3月強化合宿	鳥取県・錦海ボートコース	強化指定/育成選手

②国際大会派遣

以下の国際大会に選手団を派遣し、パラリンピックでは初の入賞となった。

派遣期間	大会名	開催地
4月	アジア・オセアニア予選	韓国・忠州
8月	世界選手権	カナダ・St. キャサリンズ
8月	パリパラリンピック	フランス・パリ

③乗艇体験会の実施

- ・普及活動として、神奈川県相模湖漕艇場等において乗艇体験会を9回実施した。

5. 管理本部関係事業及び独立委員会事業

(1) 国際関係事業

①国際大会への審判派遣…今年度は以下の国際大会に審判員を派遣した。

[World Rowing 主催大会(五輪等を含む)]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
世界シニア/U23/U19 ローイング選手権	カナダ セントキャ サリンズ	8/18～25	山崎佳奈子	東京
パリパラリンピック 競技大会	フランス パリ	8/30～9/1	隈元幸治	神奈川
世界コースタルローイング 選手権/ビーチスプリント ファイナル選手権	イタリア ジェノア	9/6～15	田畑喜彦	愛知

世界マスターズレガッタ	ドイツ ブランデン ブルク	9/11～15	成田泰久	東京
-------------	---------------------	---------	------	----

[ARF 大会]

大会名	開催地	期間	派遣審判	所属
アジアインドア選手権/ ペナン国際インドア選手権	マレーシア ペナン	8/9-8/11	吉野泰宏	東京
アジア U23/U19) ローイング 選手権	中国 瀋陽	9/9-9/15	城ヶ峰徹也	熊本

②World Rowing/ARF 会議への代表者派遣

- 各連盟の事業方針、各国動向等最新情報を把握するため、各会議へ代表者を派遣した。

会議名	会議日程	開催国・会場地	派遣役員
アジアローイング連盟 (ARF) 総会	10/12	ウズベキスタン サマルカンド	大泉和久 国際審判
国際ローイング連盟 (WR) 臨時総会	3/14-15	スイス ローザンヌ	安井大介 国際委員長

③日韓交流事業

- 本年度は9回目(表参照)の交流となり、韓国クルーを関西選手権(7月6～7日、浜寺、関西ローイング連盟主催)に招待した。25年度は通算10回目となり、一定の成果を得た本事業を発展的解消し、新たな連携を検討することを韓国協会と合意した。

回	年	ホスト国	招待された人数	大会	ホスト側の費用負担先
1	2012	日本	選手4名(男女各2名)、コーチ2名	第10回全日本ジュニア選手権 (班蛇口湖)	菊池市実行委員会
2	2013	韓国	選手8+監督1+コーチ1	第55回全国選手権大会 (長城:光州)	韓国ボート協会
3	2014	日本	選手4名(男女各2名)、 コーチ2名、役員3名	アジアカップ I (戸田)	日本ボート協会
4	2015	韓国	選手4名(男女各2名)、コーチ2名	第4回忠州湖カップ (忠州)	韓国ボート協会
5	2016	日本	選手4名(男女各2名)、コーチ2名	第38回全日本軽量級選手権 (戸田)	日本ボート協会
6	2017	韓国	選手4名(男女各2名)、コーチ2名	第6回忠州湖カップ (忠州)	韓国ボート協会
7	2018	日本	選手4名(男女各2名)、コーチ2名	2018 Japan Cup International Regatta (戸田)	日本ボート協会
8	2019	韓国	選手4名(男女各2名)、コーチ3名	第8回忠州湖カップ (忠州)	韓国ボート協会
9	2024	日本	選手4名(男子2名、女子2名)、コーチ2名	関西選手権	日本ボート協会

- 韓国協会経由、韓国/京畿道漕艇協会より、日本におけるローイング大会を自己費用にて視察したいとの要請があり、高体連当と協議した結果、長崎/本明川水上競技場にて開催されたインターハイの視察を受け入れた。

④ 国際大会開催支援

- ・来年の愛知名古屋アジア競技大会の開催に向け、(公)愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会組織委員会及び中部ボート連盟、愛知県ボート協会と連動し、準備を支援した。

(2) 財政基盤強化に関する事業

① 予算管理規定の制定と運用について

- ・2023年12月に予算管理規定を制定、東京オリンピック後の助成金縮小に合わせ強化事業への本会からの支援上限を定め、今年度から運用を開始した。今年度は強化を除く事業での収支30百万円以上、強化事業への支援は定めた上限額15百万円、最終収支15百万円以上となり目標を満了した。目標達成のために協賛金の獲得を中心にマーケティングに注力し、収入の増加を図り、縮小均衡を極力抑えた。

② 助成金について

- ・日本オリンピック委員会、日本スポーツ振興センター、戸田ボートレース事業者ならびにその他団体に対し本会の諸事業の目的および重要性について理解を求め、継続的且つ安定的な支援を頂いた。

③ 募金、義援金の取り組み

- ・「JARA日本代表強化募金2024」を実施し、3,120千円の協力を得た。
- ・2023年1月の能登半島地震で被災した石川県ローイング協会に対し、広く義援金を募り、500千円を寄贈した。

④ マーケティング戦略の構築

- ・総務委員会内に設置した「マーケティング部会」を通じ本会内のマーケティング活動を横断的に取りまとめた。
- ・JOC/NFジョイントマーケティングに参加し3年目になる今年度は、スポンサーから4ポイント分の協賛金の獲得し、ローイング競技の普及、安全・環境活動の啓蒙に繋げた。

⑤ 情報プラットフォームの構築

- ・「みる人」「する人」「支える人」を一元管理しローイングの価値向上を通じて経営基盤の強化を図るため、スポーツ庁の助成を得て、2025年度運用開始を目指し、新たな情報プラットフォームを構築した。情報を集積し事業収入増にも繋げるべく、2025年度中に本格稼働開始の予定。

(3) ガバナンス強化に関する事業

前回の加盟上部団体（JSP0、JOC、JPSA）による本会のガバナンスコードの適合性審査では、要改善事項の該当はなしとの結果であったが、より一層の体制強化に取り組んだ。

① 公益法人に関する業務の推進

- ・公益法人として本会運営を行うために、必要な各種規定類の更なる整備をするとともに、その他の関連業務を継続して実施した。

② コンプライアンスおよびインテグリティの徹底

- ・強化の現場ならびに本会役職員に対するコンプライアンスおよびインテグリティ教育に関し、JOC等主催の研修会や講習会への参加による啓蒙活動を継続するとともに、本会内においても独自に研修の機会を設けて意識の徹底を図った。
- ・本会の「協会弁護士による研修会」制度を継続した。

(4) アンチ・ドーピングに関する事業

日本アンチ・ドーピング機構（JADA）が指定して行う国内大会におけるドーピング検査を受け入れるとともに、強化指定選手中心から対象を更に拡げ、アンチ・ドーピングに関する教育及び啓蒙の強化を図った。

① ドーピング検査受入

- ・JADAが指定して行うドーピング検査を受け入れるとともに、併せてそのサポート業務を行った。

② ドーピング防止啓発活動

- ・研修講師向け「クリーンスポーツエデュケーター資格」取得のための講習会を実施した。
- ・強化指定選手（パラローイングを含む）を対象としたWEBによるアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・U19およびU23代表選手へのアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・各地域大会（朝日レガッタや国体地区予選など）においてアンチ・ドーピング研修会を実施した。
- ・アウトリーチ活動を全日本選手権、全日本新人、朝日レガッタ開催時に実施した。

(5) 企画戦略に関する事業

- ・「新ビジョン」の推進・実現に向けて本会の現状分析と課題を整理する件に関しては、2024パリ大会後の国際競技力向上に向けて強化活動の総括（オリ・パラ）を実施するとともに、次期強化戦略計画策定及び JARA 中長期戦略計画にむけての準備を開始した。

- ・スポーツ・インテグリティ（誠実性・健全性・高潔性）推進にむけて、本会において重要性の周知を徹底する件に関しては、ブライトン・プラス・ヘルシンキ 2014 宣言への署名実施に向け情報収集を行うとともに、スポーツ・インテグリティ、ガバナンスについての情報交換を関係各機関と実施した。

- ・SAGA2024（第78回国民スポーツ大会・第23回全国障害者スポーツ大会）においては、JARA ビジョン 2020 の実現と、地域への普及活動を目的にスポーツ庁、佐賀県と連携し JARA では初の試みとなる文化プログラムとしてバーチャルローイングの体験会を実施した

- ・2020 東京オリンピック・パラリンピックのレガシー全般を推進する件に関しては、国際オリンピック委員会、ワールドローイング、スポーツ庁、日本スポーツ振興センター、JOC などと継続的に情報交換を実施した。また、日本スポーツ振興センターとバーチャルローイングに関する共同研究の覚書締結に向け活動するとともに、JARA フォーラム 2025 を 2025 年 3 月に実施した。

- ・海の森水上競技場におけるレガシー推進計画の企画・立案および関係先との調整を図る件に関しては、東京都及び江東区と今後の海の森水上競技場の有効利用・活用について意見、情報交換を実施した。

- ・2026 年に開催されるアジア・アジアパラ競技大会に関しては、アジアオリンピック評議会、アジアローイング連盟、および 2026 アジア・アジアパラ競技大会組織委員会との意見、情報交換を実施した。

以上